

# 主催大会の弾力的な 運営方法について



北海道高等学校体育連盟

－ はじめに －

近年、本連盟主催の大会運営については、少子化による学校の統廃合や学校規模の縮小とともに、公共施設の減免処置の廃止や施設の老朽化、さらには当該部の廃部や指導者の転勤等もあり、支部大会も含めて全道大会の当番校の確保や大会運営に苦慮する状況が著しくなっており、従来の当番校方式だけでは対応しきれなくなっている。このため、既に競技によっては協力校方式で実施する等の弾力的な大会運営を実施する支部も見られるようになっている。今後、支部再編等により一部解決できることも考えられるが、既に大会の運営について憂慮できない状況にある競技や支部も見受けられる。

これらの状況から競技や支部の事情を考慮しながら「主管校・協力校方式」や「実行委員会方式」など弾力的な大会運営についてのメリットや運営方法、責任体制、予算執行などについて、各競技専門部から集約した「全道大会運営に係るアンケート」や当番校から提出された18年度の大会実施報告書等をもとに調査・研究し、各支部や当番校が大会を運営する際の参考となる資料の作成を行った。

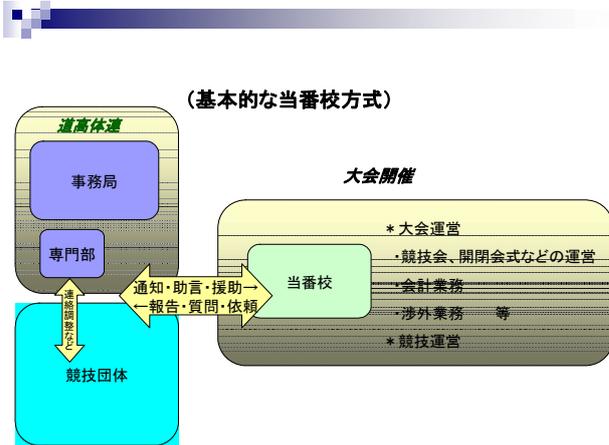
－ 目次 －

1	大会運営の考え方について	2
2	大会運営方式の決定について	3
3	大会運営の手順について	3
	(1) 主管校・協力校方式	
	(2) 実行委員会方式	
4	大会運営上の手だてについて	3
	(1) 当番校等の決定方法について	
	(2) 経費(特に道高体連からの全道大会運営費・参加料以外の収入)に関して	
	(3) 専門部のかかわり方について	
5	弾力的な大会運営のモデル	
	5-1-1 実行委員会方式(スキー競技)	4～5
	5-1-2 実行委員会方式(駅伝)	6～7
	5-2-1 主管校・協力校方式(柔道競技)	8～9
	5-2-2 主管校・協力校方式(スケート競技)	10～11
6	各種資料	
	(1) 全道大会運営に係る実態調査 結果一覧	12～17
	(2) 競技毎の大会運営の実態について	18
	(3) 弾力的な大会運営の実践記録	
	「平成17年度高体連柔道全道大会における釧根支部の取組について」	19～30

# 1 大会運営の考え方について

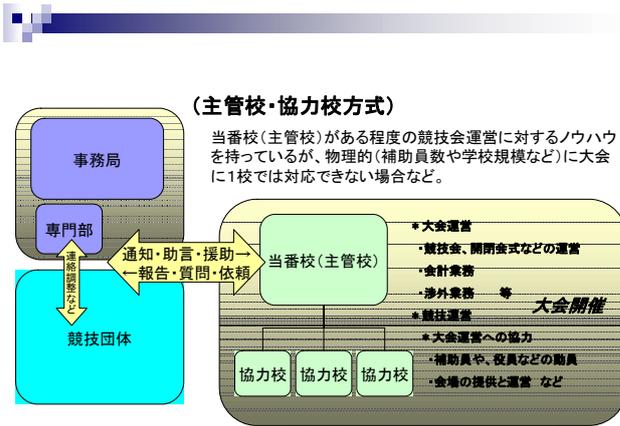
運営は「当番校方式」を基本とするが、単独校による運営・開催が非常に困難な場合はこの方式にこだわることなく、「主管校・協力校方式」「実行委員会方式」など弾力的な大会運営ができるものとする。

## 【各運営方法についての概念図】



### \*基本的な当番校方式

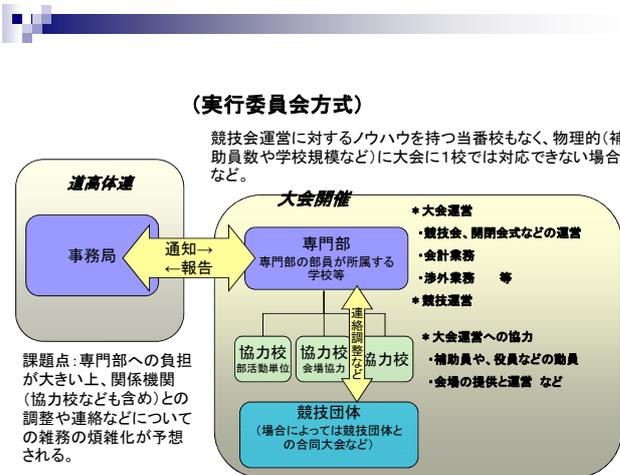
- ・当番校が主体的に一切の運営を行う。



### \*主管校・協力校方式

- ・主管校が主体的に運営を行う。
- ・会場や人員その他について必要に応じて協力校を配置する。

課題点：主管校と協力校の調整や連絡などについての雑務の煩雑化などが予想される。



### \*実行委員会方式

- ・専門部が主体的に運営を行う。
- ・窓口校を配置し必要に応じて協力校を配置する。

課題点：専門部への負担が大きいため、関係機関（協力校なども含め）との調整や連絡などについての雑務の煩雑化が予想される。

## 2 大会運営方式の決定について

「当番校方式以外の方法」による運営の実施について、

- (1) 当番予定校、もしくは該当支部からの申し出により専門部が審議し決定する場合。
- (2) 競技特性等を考慮し事前に専門部が決定する場合。

\*決定にかかわる項目について

- ・大会規模・経費
- ・施設や地域の特性
- ・当番校の持つ大会運営に関するノウハウ（専門家の有無、該当部の有無など）
- ・種目の特殊性や運営効率など

## 3 大会運営の手順について(主管校・協力校の決定・運営委員会の立ち上げなど)

(1) 主管校・協力校方式について

- ① 主管校の決定(従来の当番校)
- ② 主管校と専門部が分担内容を明確にした上で協力校を決定(連絡調整を含め)
- ③ 運営

(2) 実行委員会方式について

- ① 実行委員会の立ち上げ(専門部が中心となる)と連絡校の決定
- ② 専門部が業務内容を明確にし、組織を1)決定(連絡調整を含め)

注1) 競技協会・連盟、学校などの協力も含め

- ③ 運営

## 4 大会運営上の手だてについて

(1) 当番校等の決定方法について

- ① 当番支部を輪番で決定し、支部内での当番校決定。
- ② 特定支部間での輪番による決定。(施設などを考慮し)
- ③ 特定学校間での輪番による決定。(参加校、地域などを考慮し)
- ④ 部活動のある学校間での話し合いによる決定。
- ⑤ 専門部所属教員の学校が当番校。
- ⑥ 当番校の固定。(年度の状況にもより上記複合型も考えられる。)

(2) 経費(特に高体連からの全道大会運営費・参加料以外の収入)に関して

- ① 支部高体連からの助成。
- ② 開催地からの助成。
- ③ 連盟・協会・専門部からの助成。
- ④ 広告・放送料による収益。
- ⑤ その他(協賛金、寄付、プログラム頒布等の収益)
- ⑥ 当番校の負担

(3) 専門部のかかわり方について

- ① 専門委員長が大会運営の全てを仕切る。
- ② 大会運営の全てを専門部が中心となっていく。
- ③ 大会運営の全てを専門部と協会(連盟)が中心となり行う。
- ④ 大会全般において当番校をサポートして係る。
- ⑤ 大会当日の運営に係る。
- ⑥ 競技役員等として係る。

## 5 弾力的な大会運営のモデル

### 5-1-1 実行委員会方式(スキー競技)

北海道高体連スキー専門部

- (1) 競技 スキー
- (2) 種目 アルペン (ジャイアントスラローム男女・スラローム男女)  
スペシャルジャンプ (男子)  
ノルディックコンバインド (男子)  
クロスカントリー (男子・10Kmクラシカル/15Kmフリー・リレー)  
(女子・5Kmクラシカル/10Kmフリー・リレー)
- (3) 実施時期 1月第2週以降 (1月15日～20日・・・専門部とスキー場、連盟と協議のうえ決定)
- (4) 実施期間 開会式 (公開練習) を含め5日間 (競技日は4日間)  
\* 従来は上記の期間で実施してきたが、平成19年度よりアルペン競技は競技日を3日間に短縮で実施予定。
- (5) 運営費 運営費は総額約510万円。(道高体連—497万円。参加料—13万円)  
・主管・・・プログラム・式典 (60万円)  
・アルペン・・・・・・250万円。(予算の執行は当番校の責任による)  
・ノルディック・・・・200万円。(予算の執行は専門部の責任による)
- (6) 参加状況 参加校 男子= 60校 女子=40校 合計= 80校  
参加人数 男子=170名 女子=80名 合計=250名
- (7) 実施地区 札幌・小樽・旭川・名寄 (名寄については7年に1回)  
\*従来は競技場 (ジャンプ台等) の関係で上記の4支部のローテーションで実施してきた。今後 (平成20年度以降) については、専門部中心の実行委員会方式 (当番校から協力校に変更) により実施予定のため開催地についても上記の支部にはとどまらない可能性が高い。
- (8) 今後実施可能な場所 (スキー場)  
・アルペン・・・朝里・旭川・歌志内・富良野・名寄・阿寒  
・ノルディック・札幌・小樽・名寄 (ジャンプ台の関係で3地区に限定)
- (9) 運営方法 従来は当番校方式により4校 (主管、アルペン、ジャンプ、クロスカントリー) で運営してきたが、平成18年度よりノルディック種目については北海道選手権大会と兼ねて実施可能となり、アルペンについても地区による参加学校数の減、スキー場の確保などの問題から、今後は専門部中心の実行委員会方式で運営していく方針である。

- (10) 業務内容と協力校（平成20年度から実行委員会方式で実施の場合・・・検討中）
- ・専門部・・・大会要項作成・大会参加受付（参加料の徴収）・プログラム作成  
大会運営費の配分・大会会計（予算の支出・決算報告）  
大会結果報告書の作成  
北海道・地区スキー連盟との連携（役員依頼等）・各種目の競技運営
  - ・協力校・・・開会式（専門委員会）の会場確保・プログラム（大会資料等）配布  
競技にかかわる補助役員（教員＝可能であれば各校2～3人程度）  
閉会式会場の確保・表彰関係（試合結果の集計・賞状作成）  
全国大会申込作業の会場確保
- \*・協力校については、地域において3～5校程度を目安とする。
- ・協力校（開催支部も含め）における経費等の負担は一切ないものとする。
  - ・競技における協力校からの補助役員生徒は特に必要としない。
- (11) ノルディック種目の運営について
- ・ノルディック種目については、平成18年度より、北海道選手権大会と兼ねて実施しており、今後についても継続していく方針である。この運営については、専門部が北海道スキー連盟、開催地区スキー連盟と連携をし、実施しているため、競技役員等についてはすべて連盟により確保してもらおう。専門部としては運営費の配分、決算、また協力校としては閉会式の準備、表彰式（賞状の作成）の業務に当たるものとする。
- (12) アルペン種目の運営について
- ・アルペン種目においては、今年度までは主管当番校、さらにアルペン種目当番校を置き、運営していくが、来年度以降は専門部中心に協力校をおく実行委員会方式で運営する方向性で検討している最中である。具体的には、(10)の業務内容と協力校、にある内容である。
- (13) その他
- ・アルペン種目については、今後今までの支部ローテーションにこだわらず、開催地については3年後までの見通しを目安に決定していく予定である。これによって、過去に当番校業務を経験したことのない支部、地域に開催要請があり協力校の依頼をする可能性があるが上記の内容をふまえ協力を願いたい。
  - ・ノルディック種目については、北海道選手権大会と兼ねるため、開催地については北海道スキー連盟において前年の9月に正式決定となるため、協力校の要請は約3ヶ月前となり、時間的な余裕がなく厳しい状況が予想されるが、業務内容が限定されていることを含め協力を願いたい。

## 5-1-2 実行委員会方式（駅伝）

北海道高体連陸上専門部

### (1) 種目 駅伝

### (2) 実行委員会方式に至った経緯について

平成24年度までの当番支部は決まっていたが、コースを設定するうえで、警察との折り合いがつかず、公道使用の許可が下りない状況になってきた。道路（コース）に立つ走路員の数・並べるコーンの数が従来の数倍求められ、運営面・予算面を考えると大会を開催するのはとても無理な事態になった。そこで考えられたのが、市民マラソン等を行っている豊平河川敷マラソンコースである。札幌支部陸上専門と道高体連陸上専門部が共同で行えば、当番校に頼らなくても十分に実施は可能だという提案があり、実施に踏み切った。

### (3) 運営方式について

ア、当番校 一札幌白石高校（専門委員長在職校、名目上）

イ、事務局構成一札幌支部陸上専門委員・道高体連陸上専門部（部長指名専門委員と小樽支部陸上専門委員長）。

ウ、大会運営 一上記イの事務局と監督会議・開閉会式・競技会運営は全道11支部各専門委員長も協力。

エ、渉外業務 一事務局で行う。

オ、競技役員 一札幌陸上競技協会と市内の陸上部顧問にお願いする。

カ、補助員 一支部専門委員の高校にお願いする。（白石高校からも出す）

※札幌陸上競技協会・（財）北海道陸上競技協会との連絡調整については、陸上競技専門部の中に理事や各委員会の委員長がいるので特に問題はない。

### (4) 平成19年度全道駅伝大会準備日程表

9月28日（金） 参加申込締切

2日（火） 専門委員会（白石 16:00～）

3日（水） 専門委員会（白石 16:00～）

10日（水） 専門委員会（白石 16:00～）・プログラム原稿最終提出

15日（月） 専門委員会（白石 16:00～）

19日（金） コース内看板設置（13:00～）

※駅伝大会のお知らせと協力のお願いの看板

23日（火） 専門委員会（16:00～） ・ 関門主任会議（18:30～）

24日（水） コース内看板設置（10:00～）

※中継所・残り1kmの看板・準備最終確認

25日（木） 専門委員運営会議10時～ ・ 監督会議13時～ ・ 開会式14時～

26日（金） 大会当日（真駒内屋外競技場 女子10時スタート・男子12時スタート）

### (5) 大会当日の運営について

ア、監督会議13:00～・開会式14:00～（前日に行う）

会場はホテルで行う（アパホテル）。準備・受付・司会等については（3）のイ・ウのメンバーで行う。

イ、大会当日

各中継所のテント・トイレ、コーン設置4：00～

7時30分主任会議→8時00分競技役員全体打合せ→打合せ終了後、各関門役員移動→  
女子スタート10：00

ウ、閉会式

真駒内屋外競技場15：30～（参加校8位までの入賞校・参加希望校）

エ、後始末

競技終了後直ちに行う17：30すべて終了（コピー機は翌日返却）

(6) 大会運営上の課題について

ア、運営費が足りず広告を集めた。（テントやトイレ・看板設置は業者）

イ、真駒内屋外競技場・真駒内公園・河川敷の使用料で約20万円ほど支払う。

ウ、中継所のテント・トイレ・コーンについては、大会当日にしか設置できないため、業者に  
依頼しているが設置場所を指示するために、専門部の何人かは朝4：00から立ち会う。

エ、専門委員会以外に、中継所やあと1kmのポイントを付ける作業があった。

(7) その他

ア、専門部をはじめ、関係者全ての協力の下、大会運営が成り立っている。

イ、毎年の実施は大変である。（関係者には誠実に取り組んでいただき、それが心苦しい。）  
また、一人一人の優れた運営能力によって成り立っている。誰か一人でも欠けると大変な  
ことになる。

ウ、補助員は各専門委員の学校の陸上部員なので、支障なくよく活動してくれる。

## 5-2-1 主管校・協力校方式(柔道)

北海道高体連柔道専門部

(1) 種目 柔道 (主管校：名寄光凌高等学校 協力校：稚内商工高等学校)

(2) 主管校・協力校方式に至った経緯

平成20年度の名寄支部開催にむけ、当番校決定のための打合せを行ったが、支部内では柔道を専門とする顧問による部活実施校が少ないため、専門委員がいる名寄光凌高等学校を当番校として実施することとなった。しかし、名寄市で大会を実施するためには施設や宿泊などが十分ではなく、大規模な柔道大会の実施は困難な状況であった。このため、会場としての施設などが整った稚内市での大会実施を行うこととしたが、当番校(主管校)の名寄光凌高校から会場地の稚内市までは170キロ以上の距離があり、競技運営が困難であるため、会場近隣校である稚内商工高等学校を協力校として大会運営を行うこととした。

(3) 運営方式について

ア、主管校 (名寄光凌高等学校)

○大会運営

- ・ 渉外業務
- ・ 抽選会業務
- ・ 会計業務
- ・ 競技会、開閉会式などの運営

○その他

イ、協力校(稚内商工高等学校)

○競技運営

○大会運営の協力

- ・ 補助員や役員などの動員
- ・ 会場業務全般

○その他

(4) 各学校の業務内容

ア、主管校・・・事務職員、教員6名程度

○会計業務、大会事前業務、抽選会業務、大会運営の補助、渉外業務、その他

イ、協力校・・・教員20名程度、補助員(生徒)50名程度

○会場準備、当日の大会運営など

(5) 業務日程

ア、平成19年度

4月 各校の業務決定(5月校長会)

5月 2日(水) 専門委員会 (札幌琴似工業) 一専門委員

5月 16日(水) 事務局打合せ①〔業務計画・分担〕 担当者

6月 7日(木) 全道大会組合せ抽選会視察(北見北斗) 一専門委員+1名

6月 19～22日 全道大会視察(北見市) 一各校2名

7月～9月 各校で業務の計画を作成(11月支部新人戦までを目途)  
 3月 実施運営計画の作成 ー光凌、稚内商工  
 ＊その他、定期的に事務局打合せを実施

イ、平成20年度

5月上旬 支部予選要項決定、配布 稚内高校当番校  
 5月上旬 専門委員会出席、全道大会要項の決定 両校代表の出席  
 5月30日(土) 支部大会予選(稚内高校)  
 6月2日(月) 全道大会申込み締切  
 6月6日(金) 全道大会抽選会予定(光凌高校) 名寄光凌高校  
 プログラム作成 名寄光凌高校

(6) 当日の運営

6月16日(月) 会場設営 稚内商工高校  
 6月17日(火) 諸会議(審判講習会、専門委員会、審判会議、監督首相会議)  
 6月18日(水) 開会式、男女団体戦、女子団体戦計量  
 6月19日(木) 計量、女子個人戦、男子個人戦(1, 2回戦)  
 6月20日(金) 男子個人戦(決勝まで)、閉会式、会場撤去

＊大会終了後 報告文書等の発送、残務整理

(7) 大会運営上の課題

- ア、主管校と協力交換に地理的に距離があるため、打合せ等も困難であり、旅費等の経費もかさむ。
- イ、使用する畳の枚数が多いため、稚内市内だけでは調達しきれず、名寄や浜頓別からも調達しなければならないために運搬費がかさむ。
- ウ、名寄支部の柔道部員が極端に少ないため、ほとんどの部員が全道大会に出場するので補助員の確保や指導が難しい。
- エ、宿泊施設が少ないため、会場まで距離のある学校が出てくるが移動手段も少ない。

## 5-2-2 主管校・協力校方式(スケート競技)

北海道高体連スケート専門部

- (1) 競技 スケート
- (2) 種目 スピード (男女)  
フィギュア (男女)  
アイスホッケー (男子)
- (3) 実施時期 スピード・フィギュア ～ 12月第3週頃  
アイスホッケー ～ 12月中旬  
(U20世界選手権の日程により変更の場合あり)
- (4) 実施期間 スピード・フィギュア ～ 開会式含め4日間 (競技日は3日間)  
アイスホッケー ～ 開会式含め4日間 (競技日も4日間)
- (5) 運営費 運営費総額 約470万円  
(道高体連-209万円 参加料-41万円 その他-220万円)  
・スピード、フィギュア・・・270万円  
・アイスホッケー・・・・・・200万円
- (6) 参加状況 (18年度)
- |         |             |         |          |
|---------|-------------|---------|----------|
| <スピード>  |             |         |          |
| 参加校     | 男子= 16校     | 女子= 13校 | 合計= 29校  |
| 参加人数    | 男子= 69名     | 女子= 40名 | 合計= 109名 |
| <フィギュア> |             |         |          |
| 参加校     | 男子= 4校      | 女子= 13校 | 合計= 17校  |
| 参加人数    | 男子= 4名      | 女子= 15名 | 合計= 19名  |
| <ホッケー>  |             |         |          |
| 参加校     | 21校         |         |          |
| 参加人数    | 390名 (男子のみ) |         |          |
- (7) 実施地区 札幌・室蘭(苫小牧)・十勝・釧根(釧路)支部  
\*これまでは、インターハイの当番も含めた上記4支部のローテーションで実施してきた。今後は、札幌支部を除く3地区については従来通り当番校方式で実施予定。札幌支部は20年度より協力校方式により実施予定。(札幌支部については、次回から7年に1回のローテーション)
- (8) 実施可能地区  
・スピード・・・札幌、苫小牧、帯広、釧路、阿寒  
・フィギュア・・・札幌、苫小牧、帯広、釧路、旭川  
・ホッケー・・・札幌、苫小牧、帯広、釧路
- (9) 運営方法 従来は当番校方式により2校(スピード・フィギュアで1校、ホッケー1校)で

運営してきたが、今年度の室蘭支部は、ホッケーは従来通り1校・スピードを単独で1校・フィギュアを3校の協力体制とし、5校体制での実施となっている。また札幌支部は20年度より、ホッケー1校（主管）、スピード・フィギュアを複数校の協力校方式での実施を予定している。

なお、実際の競技運営については、北海道スケート連盟・北海道アイスホッケー連盟及び各地方連盟が中心となって運営されている。

(10) 業務内容と協力校（平成20年度札幌支部大会協力校方式実施の場合・・・検討中）

- ・ 専門部・・・大会要項原案作成、大会予算原案作成  
    主管校・協力校及び連盟関係との連絡調整
  - ・ 主管校・・・大会要項作成、大会参加受付（参加料の徴収）、プログラム作成  
    大会運営費の配分、大会会計（予算の支出・決算報告）  
    大会結果報告の作成  
    北海道・各地方連盟との連携（競技役員依頼等）  
    各競技の運営補助
  - ・ 協力校・・・監督会議・抽選会の準備・運営補助、開会式の準備・運営  
    閉会式の準備・運営及び表彰関係  
    競技に関わる補助役員  
    全国大会申込作業の補助
- \*・協力校については、スピード・フィギュア各1校で各10名程度を目安とする。  
・協力校（開催支部も含め）における経費等の負担は一切ないものとする。  
・補助生徒は必要としない。

(11) フィギュア種目の運営について

- ・フィギュア種目については、19年度より採用された新しい採点法（新ジャッジシステム）への移行が遅れているが、全国高校総体では19年度からの採用が予定されている。道スケート連盟の意向としても、20年度札幌大会からの採用を検討している。

(12) その他

- ・従来通り4地区のローテーションを基本とするが、今後はスピード・フィギュア・アイスホッケーの単独種目での開催も検討していく予定である。
- ・20年度の札幌支部開催に当たり、施設使用料の関係からスケート専門部の財源を確保することが急務である。

資料-1-1 「全道大会運営に係る実態調査」結果一覧(平成18年度大会報告書に基づく)

競技名	大会開催に関する統計(平成18年度 当番校から提出された大会終了後の報告書による)									
	大会 日数	参加校	参加者数	競技役員数		当番校教員数 (期待数)	運営・参加料 雑収入 運営費総額			
				役員	補助員		雑収入内訳			
1 陸上競技	3	322	1599	214	120	15	4,159,200	450,038	4,809,238	開催地、支部、広告、当番校、その他
2 体操(含新体操)	2	48	184	71	50	20	787,200	250,632	1,037,832	開催地、支部、広告
3 水泳	2	135	311	71	17	30	848,800	227,180	1,075,980	支部、当番校、その他
4 バスケットボール	3	58	852	130	185	30	2,421,600	521,332	2,942,932	開催地、支部、広告、当番校、その他
5 バレーボール	3	53	848	116	160	3	2,148,400	886,500	3,034,900	開催地、支部、協会、専門部、広告、その他
6 卓球	3	89	474	41	72	10	1,619,200	290,000	1,909,200	開催地、支部、広告
7 ソフトテニス	3	99	559	54	114	8	1,647,200	70,000	1,717,200	支部、広告
8 テニス	3	101	427	43	20	15	1,041,600	727,099	1,768,699	支部、広告
9 バドミントン	3	96	478	64	100	30	1,432,400	994,501	2,426,901	開催地、支部、協会、広告
10 ソフトボール	3	16	211	56	50	40	1,038,800	-22,270	1,016,530	支部、協会、広告
11 ハンドボール	2	26	354	35	50	10	1,033,200	235,000	1,268,200	支部、協会、広告
12 サッカー	3	25	500	67	83	15	1,490,000	350,000	1,840,000	開催地、支部、協会
13 ホッケー	1	5	80	15	34	8	344,000	50,000	394,000	支部
14 相撲	1	9	49	35	35	5	379,200	50,000	429,200	支部
15 柔道	3	183	653	133	172	30	1,702,400	574,500	2,276,900	支部、連盟、広告、その他
16 剣道	3	130	337	36	165	15	1,259,600	400,500	1,660,100	支部、連盟、広告、その他
17 レスリング	2	8	47	23	8	8	617,600	100,000	717,600	支部
18 弓道	2	87	340	55	60	25	1,002,000	50,000	1,052,000	支部
19 ボクシング	3	13	44	25	78	5	525,200	436,913	962,113	支部、当番校
20 ウェイトリフティング	1	9	35	49	28	10	318,000	208,716	526,716	支部、協会、その他
21 フェンシング	2	4	23	46	0	5	288,400	50,000	338,400	支部
22 ボート	2	13	64	54	20	5	811,200	152,000	963,200	支部
23 ヨット	2	5	17	25	0	3	263,600	51,899	315,499	支部、当番校
24 登山	3	19	72	28	9	10	527,600	101,517	629,117	支部、当番校
25 空手道	2	71	251	38	87	10	1,240,800	187,438	1,428,238	支部、当番校
26 自転車競技	1	7	20	28	20	25	286,000	50,000	336,000	支部
27 アーチェリー	2	24	151	22	2	4	530,800	100,000	630,800	支部
28 少林寺拳法	2	28	163	39	49	30	690,400	103,511	793,911	支部、当番校
29 カヌー	2	2	7	7	0	2	255,600	-147,537	108,063	高体連へ返金
30 ラグビー	3	16	375	28	103	20	1,310,000	325,000	1,635,000	支部、協会、広告、その他
31 駅伝競走	1	66	538	90	73	3	1,680,400	50,000	1,730,400	支部
32 スキー	3	103	249	312	60	8	5,169,200	387,928	5,557,128	支部、連盟
33 スケート	3	67	518	177	45	50	2,504,400	2,249,300	4,753,700	支部、連盟、広告、その他

資料一 1-2 「全道大会運営に係わる実態調査」結果一覧（専門委員長への調査資料に基づく）

No. 1

競技名	競技の特性について(各専門部へのアンケート調査による)							備考	
	審判手配	宿泊及び弁当手配	特記事項	当番校決定手順と課題など	運営上の特殊事項	専門部とのかかわり	弾力的な開催		その他
1 陸上競技	・参加校顧問 ・主管陸協 ・当番支部陸上顧問	・宿泊 ・昼食	・養教 配置	年度毎の当番支部を決め、支部内で当番校を決めるが引き受けの当番支部当番校の決定に苦慮している。	競技場の施設・設備が整い2000人程度収容できる宿泊施設のあること。	プログラム編成会議を当番校と進める。当日は専門委員長と専門部が競技運営、苦情処理、問題解決に関わっている。	札幌支部では当番校制ではなくても実施は可能。(全道道高校駅伝は専門部で実施)	札幌以外の一部でも当番校制でなく実施可能だが一定期間業務に専念できない教員が5名程度いないと実施不可能。	参加者1600名(220校)
2 体操(新体操)	・参加校顧問 ・専門委員 ・開催支部協会員 ・道体協審判員(高校教員以外含む)	・宿泊 ・昼食	・養教 配置	年度毎の当番支部を決定し、支部で当番校を決定するが支部に偏りがあり、札幌以外では同一校が複数回当番校となっている。	札幌以外での開催は器具の運搬が必要である。(高体連負担)競技の特殊性から近年、専門の教員のいる学校が当番となっている。	競技役員、審判員として運営に関わっている。	平成21年度、小樽商業と小樽桜陽が協力開催。商業高校に男子生徒が少なく会場設営、会場係として桜陽高校の生徒を動員。	参加校顧問が審判を行うこともあり選手補助ができない。	参加者200名(45校)
3 水泳	・連盟 ・地元協会 ・当番支部参加校教員 ・当番校教員	・なし	・養教 配置 ・A.E.D 配置	年度毎の当番支部を決定し、支部内で決定。公認プールの制約上、函館・札幌のみの開催しかできない。	札幌の会場費が高い(1日30万程度)健全な大会運営で開催できるのは函館支部のみである。	開催前の運営会議(2回程度)、競技役員としての配置、全国大会申し込み受付等に関わっている。	運営費の面で22年度より函館開催として固定。専門部教員が少なく、地元協会が取り仕切り、当番校業務は補助員と教員派遣のみとする。	審判資格を取得している教員が少なく、地元協会協力なしに試合を開催できない。	参加者300名(96校) 会場が札幌・函館に限定
4 バスケケットボール	・支部専門委員協会	・宿泊 ・昼食	・養教 配置	5年間分を専門委員会で提案。その原案について支部で検討し道専門部と各支部との事務連絡で決定する。	特になし。	開閉開式・代表者会議は専門部と当番校、各会場では抽選会の際に下見をし当番校と相談等、会場設営から終了まで。	予定なし。	特になし。	参加者850名(55校)
5 バレーボール	・開催地協会 ・開催支部引率以外教員	・宿泊 ・昼食	・養教 配置	11支部ローテ(次年度より10支部ローテ)、支部内調整。管理職の理解が得られない。(決定にもかかわらず、管理職の異動が早い)	会場レベル、施設、人員(地元スタッフ)	全道大会出場と不出場に分け、大会に参加しないメンバーが主に運営に関わっている。	当番校でなく、専門部が中心となっておりつつある。	特になし。	参加者800名(56校)
6 卓球	・専門委員 ・当番校教員 ・審判員の手配は当番校に一任 ・当番校支部顧問 ・地区連盟	・宿泊 ・昼食	・養教 配置	年度毎に担当支部を決定し、支部で当番校を決定している。	特になし。	競技役員として運営に関わっている。	特に検討していない。	特になし。	参加者450名(85校)

資料-1-2「全道大会運営に係わる実態調査」結果一覧（専門委員長への調査資料に基づく）

No.2

競技名	競技の特性について(各専門部へのアンケート調査による)										備考
	審判手配	宿泊及び 弁当手配	特記事項	当番校決定手順と課題など	運営上の特殊事項	専門部とのかわり	弾力的な開催	その他	大会の規模 競技の特殊性など		
7 ソフトテニス	・当番校に一任	・宿泊 ・昼食	・養教 配置	ローテで当番支部決定、支部内で当番校決定。支部によっては当番校可能校が2校しかなく、辞退する支部が2支部がある。	特になし。	競技役員として当番校と準備段階から大会終了まで関わっている。	予定なし。	南北空知の統合についての情報が少なく、専門委員の数など具体的に知りたい。	参加者570名(100校)		
8 テニ	・各支部専門委員 ・参加校顧問	・宿泊 ・昼食	・養教 配置	当番支部を輪番で決め、支部で当番校を決める。	札幌支部(野幌運動公園コート)の使用料が極端に高い。	大会運営とコーディネートしている。	予定なし。	特になし。	参加者450名(110校) 札幌支部開催での会場費が突出して高い。		
9 バドミントン	・協会 ・引率顧問 ・専門委員 ・当番支部顧問 ・当番校	・宿泊 ・昼食	・養教 配置	年度毎に当番支部を決定し、支部内で当番校を決定。	特になし。	競技役員として運営に関わっている。	特に検討していない。	特になし。	参加者480名(140校)		
10 ソフトボール	・当番校一任	・昼食	・養教 配置	支部に振った後、支部内で話し合い。	協会との連携部分が難しい。	運営、競技役員として大会運営に関わっている。	協会・専門部による運営は可能である。	特になし。	参加者210名(16校)		
11 ハンドボール	・引率顧問 ・支部上級審判 ・支部専門委員	・なし	・養教 配置	各支部のローテに従い、支部内で決定。競技の特性から一定限の広さが必要。	開閉式は当番校にお願いするが、競技運営は専門部が中心に実施。	競技運営を中心に関わっている。	協会・専門部による運営は可能である。	特になし。	参加者350名(25校)		
12 サッカー	・専門委員 ・協会 ・一般審判員	・宿泊 ・昼食	・養教 配置	年度毎に当番支部を決定し、支部内で決定。	芝生のグラウンドをできるだけ確保する。	参加チーム以外の専門委員は、各役割で全ての運営に関わっている。	女子が参加するようになり協力校に手助けを願う場面が予想される。	特になし。	参加者680名(35校) 芝生グラウンドを 極力確保する。		
13 ホッケー	・道連盟	・なし	・養教 配置	札幌市内4校(新陽→北海→学園札幌→江別)の順で輪番としている。	特になし。	あらゆる面で関わっている。	予定はしていないが、当番校方式でなくても運営は可能である。	特になし。	参加者90名(5校) 当番校が札幌支部4校に限定されている。		
14 相撲	・参加校顧問 ・連盟、協会 ・顧問以外の教員	・昼食	・養教 配置	特定校にローテーション。	特になし。	大会競技役員として関わっている。	予定なし。	特になし。	参加者50名(10校)		
15 柔道	・参加校顧問 ・柔道部員	・宿泊 ・昼食	・整復師 配置	専門部で開催支部を決定し、当番校は支部で決定。会場の関係で開催場所がある程度限定される。	試合場4面とれる会場が必要。入場者が多く広い体育館が必要。	大会運営は殆ど専門部で行う。記録等は当番校が行う。	主管校、担当校として大会を開催している。	特になし。	参加者900名(170校) 試合場を4面とれる 会場が必要である。		

## 資料1-1-2「全大会運営に係わる実態調査」結果一覧（専門委員長への調査資料に基づく）

No. 3

競技名	競技の特性について(各専門部へのアンケート調査による)							備考	
	審判手配	宿泊及び弁当手配	特記事項	当番校決定手順と課題など	運営上の特殊事項	専門部とのかわり	弾力的な開催		
16 剣道	・審判員は各支部より推薦 ・役員は専門部担当 ・校より依頼	・宿泊 ・昼食	・養教配置	年度毎に当番支部を決定し、支部で当番校決定。	特になし。	各会場の審判責任者、竹刀検査担当、その他大会運営全般に関わっている。	予定なし。	特になし。	大会の規模 競技の特殊性など 参加者350名(130校)
17 レスリング	・参加校顧問 ・協会 ・当番校教員	・なし	・看護師配置	年度毎に担当支部を決定し、支部内で当番校を決定するが、施設や部のある学校が特定されるので当番校も特定される。	開催支部が限定される。マットのない会場ではマットの運搬が大変である。	大会運営全般(競技方法、流れの説明、指導等)	当番校からの会場提供と補助生徒の派遣があれば、専門部と協会を中心とした運営が可能。	特になし。	参加者50名(10校) 当番校が施設や部のある学校に特定される。
18 弓道	・当番支部顧問 ・地元弓道連盟	・宿泊 ・昼食	・養教配置	11支部でローテを決定(特別に傾斜はかけない)当番支部の専門委員会を中心に当番校を決定。札幌を中心としてローテを検討中。	札幌以外では仮説弓道場を設けるための費用が会計を大きく圧迫し、札幌も道立体育館の減免が廃止となれば赤字の可能性が出てくる。	競技運営に関して、当番校の負担を減らすために専門部が中心となっており、道連盟役員が中心となり運営を行っている。	道高体連の判断と指針が出るのを待っている段階。一日も早くお願いしたい。	特になし。	参加者390名(80校)
19 ボクシング	・参加校顧問 ・連盟 ・当番校	・なし	・医師配置 ・看護師配置	高体連専門委員会でのローテーションを決めるが、小規模校での実施が困難なためある程度の規模の学校でのローテーションとなる。	全試合の医師による検診及び立ち会いが義務づけられており、人件費が30万かかる。運営費を圧迫している。	専門委員と道連盟役員が中心となり運営を行っている。	今年度より当番校の負担を軽減するために専門部が中心となり大会を運営し、今後も継続予定。(札幌会場)	医師の派遣が不可欠であり、医師の確保や医師の費用の捻出に苦慮している。	参加者70名(20校) 大会には医師の立ち会いが義務づけられている。
20 ウエイトリフティング	・顧問 ・協会	・なし	・養教配置	部活のある学校間の話し合い決定しているが、実施できる場所が限られ、当番校が固定化してきている。	会場の確保(フラットホームの組める会場が必要)	会場設営、安全点検、大会運営に関わっている。	予定なし。	特になし。	参加者35名(11校) フラットホームを組める会場が必要。
21 フェンシング	・各校のOB、OG	・なし	・養教配置	札幌光星高校、札幌大谷高校による輪番。参加校が減少している。	審判は競技経験者しか出来ないため手配に苦労する。	道協会と当番校中心としていつも一緒に行っている。	予定なし。	特になし。	参加者20名(4校) 当番校は2校に特定。
22 柔道	・道協会 ・顧問以外の教員	・なし	・医師配置 ・養教配置	当番校が可能な学校(約6校)のローテで実施しているが、部活動のある学校が半減し、当番可能校に制限がある。	参加校の減少や地方協会の衰退等から茨戸川ボート場のみの開催となり、地方の当番校(北見・網走)では出張旅費が高止。	専門委員長とボート協会が主体的に大会を運営している。	予定はないが当番校を1校(石狩翔陽高校)に固定することが可能か検討中。	特になし。	参加者80名(16校) 茨戸川ボート場に会場が固定されている。

資料一 1-2 「全道大会運営に係わる実態調査」結果一覧（専門委員長への調査資料に基づく）

No. 4

競技名	競技の特性について(各専門部へのアンケート調査による)										備考
	審判手配	宿泊及び弁当手配	特記事項	当番校決定手順と課題など	運営上の特殊事項	専門部とのかわり	弾力的な開催	その他	大会の規模	競技の特殊性など	
23 ヨット	・参加校顧問 ・協会 ・江差町職員	・朝食 ・夕食	・病院連絡体制の整備	参加校の中でローテを組んでいる。4年に1回程度の当番校となり学校によっては負担となる。	特殊な競技のため参加校が増えにくい。艇の運搬に大きな負担(経費やトラックの手配)がかかる。	顧問として参加するが、全道大会の書類手続きも行う。	複数校で実施することも検討している。	団体との種目が違い指導が困難である。レースに使用する艇が老朽化している。	参加者24名(7校) 当番校は参加校で輪番している。		
24 登山	・専門委員 ・参加校以外の顧問、顧問OB	・宿泊 ・朝食、 ・夕食を指定	・養教配置	年度毎の当番支部を決め、支部で当番校を決定するが、支部活動のある学校又は顧問が少なく、決定に困難である。	開催支部により当番校の負担が大きい。支部内の加盟校の協力が前提。事前登山が不可欠で人数や日程の負担が大きい。	大会当日の運営に中心的な役割を果たしている。	複数校により大会を実施している。	当番校を含む役員全員が現地宿泊するため、特に当番校の負担が大きい。	参加者80名(20校) 当番校運営は支部内加盟校の協力が前提となる。		
25 空手道	・専門部 ・道連盟	・宿泊 ・朝食	・医師配置	支部割り当て順とするが札幌支部は隔年とする。「部」を持つ学校に限られており同一校が重複する等、割り当てに苦労する。	連盟に競技役員を委託しなればならない。	競技運営、事務局スタッフとして関わっている。	予定なし。	特になし。	参加者280名(50校) 2年に一度札幌支部での開催、部を持つ学校に限定。		
26 自転車競技	・協会 ・当番校教員	・朝食	・養教配置	競輪場が函館支部にしかない。そのため、18年度までは専門部校が函館支部となる。	会場が函館支部にしかない。せ等に関わっている。	プログラム作成の打ち合わせ等に関わっている。	予定なし。	特になし。	参加者20名(5校) 会場が函館に限定、18年度まで函館支部実施。		
27 アーチェリー	・参加校顧問 ・協会	・宿泊 ・朝食	・養教配置 ・女性教諭 ・教諭配置	札幌支部以外の学校によるローテで運営するが、登録学校が少なく負担は大きい。	会場として使用できる公的施設が少なく、現状では「帯広の森」と「キロロ特設射場」しか考えられない。	専門部全員が役員として関わっている。	予定なし。	「帯広の森」は絶対安全な施設ではなく常に不安を持っている。後方の安全が確実に確保できる会場での開催が課題。	参加者170名(25校) 会場は2カ所(キロロ帯広の森)に限定されている。		
28 少林寺拳法	・専門委員 ・連盟派遣	・なし	・養教配置	参加校による持ち回り。特定の学校に偏りがある。	審判を競技団体から派遣してもらうため、土日開催となる。	大会当日の運営は専門委員が中心となっている。	予定なし。	特になし。	参加者160名(30校) 審判委員の関係上、土日開催。		
29 カヌー	・当番校教員	・なし	・診療所 ・消防署 へ依頼	全道的にカヌー部を継続しているのは南富良野しかない。他校に部のないのが始点である。	コースの設置、公認審判員の不足、参加校が殆どない。	全てを一人で取り仕切っている。	予定なし。	当番校から経験者が転出し、専門的な知識のないまま運営をしなくてはならない。	参加者10名(3校) 専門委員長(所属校)が全ての運営を担う。		

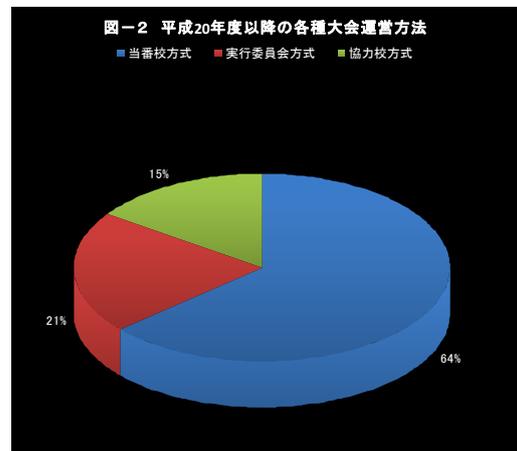
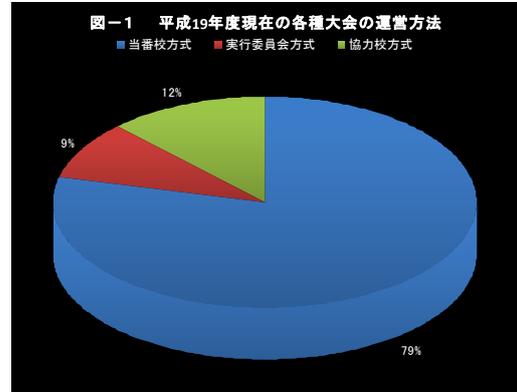
資料-1-1-2「全道大会運営に係わる実態調査」結果一覧（専門委員長への調査資料に基づく）

No.5

競技名	競技の特性について（各専門部へのアンケート調査による）										備考
	審判手配	宿泊及び 弁当手配	特記事項	当番校決定手順と課題など	運営上の特殊事項	専門部とのかかわり	弾力的な開催	その他	大会の規模 競技の特殊性など		
30 ラグビー	・参加校顧問 ・協会	・なし	・養教 配置	年度毎当番支部を決め（基本的に南北輪番）参加校が当番校となるが、参加校の減少が課題となっている。	地方大会開催では、参加支部に限られる。	組み合わせ抽選及び大会運営全般に関わっている。	専門委員会による実行委員会方式。	特になし。	参加者430名（16校） 参加校が当番校となる参加校の減少が課題。		
31 駅伝競走	・支部顧問 ・協会	・宿泊 ・昼食	・看護師 配置	20年度は標茶高校が当番校、21年度は標茶高校が当番校、22年度は相模原が当番校となっている。結局札幌での実施。	警察の対応が大変である。開催希望の支部もあるが、当番校の引き受け手がなく、このままでは大会の継続は困難である。	競技全般に関わる。事前準備は当番校に依頼。	現状では当番校を決定するのは困難なので実行委員会方式しかない。	20年度開催までは決定しているが21年度以降の見通しはつかない。	参加者550名（66校） コース設定にかかわり、警察の許可が得にくい。		
32 スキー	・参加校顧問 ・連盟	・なし	・養教 配置 ・パトロール	施設の関係で旭川・札幌・小樽・名寄の4支部でローテを組んでいるが、施設の問題からこの方法での実施が難しい。	施設・参加校に地域的な偏りがあり、運営費も施設利用料が会場によって大きく違い、開催地による格差が大きい。	アルペンは当場校との連携の上、運営している。ノルディックは専門部が中心となり協会と連携の上運営している。	次年度以降は専門部中心で協力校による実行委員会方式の運営を予定。（20年度札幌大会以降）	スキー一種目の競技特性を各支部（各校）に理解いただき大会運営に協力願いたい。	参加者250名（10校） 利用施設により運営費に大きな隔たりがある。		
33 スケート	・連盟役員	・なし	・養教 配置	釧路・室蘭・十勝・札幌の4支部でローテ（全国大会無含め）を組むが札幌は参加校が少なく特定校に負担がかかり、3支部での輪番となっている。	開催支部により会場費の差が大きい。特に札幌市の会場使用料が極端に高い。	従来は当番支部及び当番校が中心となり、専門部が直接関わる部分は少ない。	従来は当番校制で実施してきたが今年度（室蘭支部）は、札幌市の施設減免をお願いしたい。	参加者450名（67校） 現況では釧路・苫小牧・帯広で輪番にならざるを得ない。			

- 資料-2 競技毎の大会運営の実態について -

	競技名	実施状況 (平成19年度)	今後の予定	補足事項
1	陸上競技	当番校方式	当番校方式	当番校方式以外での実施も可能
2	体操(含新体操)	当番校方式	協力校方式	
3	水泳	当番校方式	実行委員会方式	当番校は補助員と教員の派遣のみ
4	バスケットボール	当番校方式	当番校方式	
5	バレーボール	当番校方式	当番校方式	
6	卓球	当番校方式	実行委員会方式	専門部が中心となって行いつつある
7	ソフトテニス	当番校方式	当番校方式	
8	テニス	当番校方式	当番校方式	
9	バドミントン	当番校方式	当番校方式	
10	ソフトボール	当番校方式	当番校方式	弾力的な運営について検討中である
11	ハンドボール	当番校方式	当番校方式	協会・専門部による開催は可能
12	サッカー	当番校方式	協力校方式	
13	ホッケー	当番校方式	当番校方式	予定はないが当番校方式以外の運営も可能
14	相撲	実行委員会方式	実行委員会方式	
15	柔道	協力校方式	協力校方式	
16	剣道	当番校方式	当番校方式	
17	レスリング	当番校方式	当番校方式	会場・教員・生徒の確保ができれば実行委員会方式も可能
18	弓道	当番校方式	当番校方式	高体連の指針待ち
19	ボクシング	実行委員会方式	実行委員会方式	
20	ウェイトリフティング	当番校方式	当番校方式	
21	フェンシング	当番校方式	当番校方式	
22	ボート	当番校方式	当番校方式	当番校固定を検討
23	ヨット	当番校方式	当番校方式	協力校方式を検討
24	登山	協力校方式	協力校方式	
25	空手道	当番校方式	当番校方式	
26	自転車競技	当番校方式	当番校方式	
27	アーチェリー	当番校方式	当番校方式	
28	少林寺拳法	当番校方式	当番校方式	
29	カヌー	当番校方式	当番校方式	専門部＝当番校
30	ラグビー	当番校方式	実行委員会方式	
31	駅伝競走	実行委員会方式	実行委員会方式	
32	スキー	協力校方式	実行委員会方式	
33	スケート	協力校方式	協力校方式	
	当番校方式	26	21	
	実行委員会方式	3	7	
	協力校方式	4	5	
	合計	33	33	



\* 備 考

・表中の運営方法は、各専門委員長の回答からWGで判断しまとめた。  
 ・当番校方式、協力校方式、実行委員会方式と分類したが、競技によっては専門部等のかかわり方によって境界を定めていく運営方法もあった。  
 例：実行委員会方式に近い運営による当番校方式  
 実行委員会方式に近い主管校・協力校方式 等

## 弾力的な大会運営の実践記録

### 「平成17年度高体連柔道全道大会における釧根支部の取組みについて」

釧根支部柔道専門委員

#### 1 主管校・協力校方式で運営するに至った経緯について

平成17年度高体連柔道全道大会において釧根支部で実施した主管校・協力校方式による運営について報告する。

釧根支部では従来は当番校方式により全道大会を運営してきた。当支部では高体連柔道大会について、支部大会は毎年釧根支部の郡部校が交代で受け持ち、全道大会が釧路支部の順番となった場合は釧路市内の大規模校が当番校となる方法が受け継がれてきた。しかし、平成17年度高体連柔道全道大会においては、平成15年11月末の時点で当番校が決定できない状況に陥った。このため、当時の高体連支部校（釧路工業高校）と釧根支部柔道専門部で相談の上、平成15年12月に釧路管内柔道部顧問・高体連各校理事による会議を実施したが、当番校は決定せず、専門委員のいる高校（白糠高校・釧路西高校）で引き受けられないか検討してほしいとの結論となった。この意見を受けて白糠高校・釧路西高校はそれぞれ検討したが、白糠高校（3間口）・釧路西（4間口）とも小規模校であるため1週間に渡りどちらかの高校が単独または2校による当番校方式では実施は厳しいと判断した。

しかし、大会の期日も迫った状況で何とかして全道大会を釧路支部で実施する方法がないかと改めて白糠・釧路西両校で協議した結果、白糠・釧路西が主管校として運営にあたり、釧路管内の高校が協力校として実施する方法について、平成16年1月に再度開いた釧路管内柔道部顧問・高体連各校理事会議に提案し了承された。

#### 2 運営組織図

別紙-A（第55回北海道高等学校柔道大会 組織図および業務一覧）

#### 3 各パートの業務内容について

##### (1) 専門委員

- ・ 道専門部、地元柔道連盟との連絡調整
- ・ 主管校、協力校との連絡調整

##### (2) 主管校業務分担

###### ①主管校（白糠）高校

- ・ 全道大会各種文書発送（要項、参加申込書、役員・審判委嘱状、派遣依頼、礼状、結果報告など）
- ・ 支部大会（要項作成、参加申込書、役員・審判委嘱状、派遣依頼、礼状、結果報告など）

- ・ 支部大会（組み合わせ抽選会、準備運営）
- ・ 支部大会業務の各校への依頼
- ・ 支部大会（プログラム作成）、支部大会総括、会計
- ・ 全道大会組み合わせ抽選（西高校と分担）
- ・ 全道大会白糠地区での歓迎体制の検討や協力依頼、広告募集など
- ・ 全道大会試合関係書類準備（本部関係書類など）
- ・ 全道大会事務局業務（西高校と分担）

#### ②主管校（ 釧路 西 ）高校

- ・ 全道大会会場使用申込み
- ・ 専門委員会出席（5月）
- ・ 全道大会要項、各種申込書の作成（発送は白糠高校）
- ・ 全道大会予算編成
- ・ 全道大会参加申込書受付
- ・ 全道大会組み合わせ抽選会の運営、(必要書類準備、出場校、選手一覧、審判名簿、トーナメントの作成とラベルの準備、当日：コンピューター準備、接待準備など)
- ・ プログラム、大会用封筒等作成
- ・ 全道大会事務局業務（受付、放送、各種事務、会計、大会記録、報道関係対応など）

### (3) 協力校業務分担

#### ①協力校（ 湖陵 ・ 工業 ）高校

- ・ 会場設営、撤去、屋外看板・ステージ大看板の作成設置など
- ・ 物品準備、会場内表示・案内など
- ・ 会場内の清掃計画

#### ②協力校（ 江南 ）高校

- ・ 諸会議の準備（審判講習会、専門委員会、審判会議、監督主将会議の会場の決定と設営など）
- ・ 計量準備（計量場所の決定、体重計の準備）

#### ③協力校（ 北 ）高校

- ・ 開会式、閉会式の計画・運営全般、表彰（賞状準備など）
- ・ 式典関係掲示物、プラカード等の作成、関係生徒の指導

#### ④協力校（ 北陽 ）高校

- ・ 受付手伝い、プログラム販売など
- ・ 大会役員ネームプレート作成、リボンの準備

#### ⑤協力校（ 東 ）高校

- ・ 駐車場担当

#### ⑥協力校（ 厚岸水産 ・ 標茶 ）高校

- ・ 試合会場記録係・会場係の配置計画・事前指導

#### ⑦協力校（ 商業 ）高校

- ・ 食事（食券の準備）・接待

⑧協力校（武修館）高校

- ・ 試合会場用掲示物作成（団体戦の札・個人戦の札・審判員の名札など）
- ・ 大掲示物の印刷など

※ 4 試合会場は釧路管内各学校の顧問と柔道部員で運営

内訳（①湖陵②江南③工業④北が基本）

- ・ 全道大会に出場しない各学校の部員を中心に運営する（支部予選後に決定）
- ・ 全道大会で自分の試合を終えた各学校の部員も業務に参加する

※各協力校の仕事が、柔道部員だけで行うことができない場合は、各協力校に必要最小限の柔道部以外の生徒の協力をお願いする

#### 4 業務日程について

（平成15年度）

- 1月16日 顧問会議 主管校・協力校方式決定
- 2月25日 顧問会議 主管校・協力校の業務並びに業務日程の決定

（平成16年度）

- 4月19日 主管校打ち合わせ 大会日程・業務分担等
- 5月 専門委員会視察（札幌琴似工業）—主管校
- 6月 全道大会組み合わせ抽選会視察（苫小牧東）—主管校  
全道大会視察—主管校、各協力校

\* 協力校の業務で必要があれば視察をお願いした。協力校が視察に行けない場合は、主管校が視察し情報を協力校に伝えた。

\* 7月～9月 各校で業務の計画を作成（目標＝新人戦：9月中旬までに作成）

- 9月18日 顧問会議（新人戦） 各校業務計画提出

\* 10月～1月 各協力校と主管校の個別打ち合わせを実施

- 11月12日 主管校と北高校の打ち合わせ 式典関係
- 12月25日 顧問会議 各校より進捗状況等の報告
- 2月25日 主管校打ち合わせ 準備日程・大会事務局体制等について
- 3月18日 顧問会議 進捗状況・予算案等について
- 3月中 実施運営計画作成—主管校

（平成17年度）

- 4月23日 顧問会議（春季大会） 支部予選（全道大会プレ大会）要項決定、配布
- 5月 専門委員会出席、全道大会要項の決定
- 5月中旬 全道大会要項、申込書、依頼文書等発送  
（支部大会 5月19日（水）～21日（金）厚生年金体育館）

\* 支部大会をプレ大会として実施し、問題点等を検討

- 6月 2日 全道大会申込み締め切り
- 6月10日 全道大会組み合わせ抽選会 釧路西高校
- 6月13日 顧問会議 最終打ち合わせ

- 6月20日(月) 会場設営  
 6月21日(火) 諸会議(審判研修会、専門委員会、審判会議  
 監督主将会議)  
 6月22日(水) 開会式、男女団体戦、女子団体戦計量  
 6月23日(木) 計量、女子個人戦、男子個人戦(1, 2回戦)  
 6月24日(金) 男子個人戦(決勝まで)、閉会式、会場撤去  
 6月末以降 報告文書等の発送、残務整理等

#### 5 大会当日の運営について

※別紙-Bの通り	会場設営日	No 1
	諸会議公式練習	No 2
	開会式 男女団体戦	No 3
	男女団体戦表彰	No 4
	女子個人 女子表彰	No 5
	男子個人 閉会式	No 6
	閉会式	No 7

#### 6 大会運営上の課題について

- (1) 新しい大会運営方法であり、人的・金銭的に不安があった。  
 学校によっては柔道部員以外の人的協力はしたくないというところもあり、校長会で早めに協力を確認したほうが良いと思われる。

#### ※柔道部員以外の協力

- ・北陽高校 家政クラブ 22名(受付)
- ・北高校 吹奏楽部 80名(開会式プラカード係)

- (2) 赤字決算のときには主管校だけの負担としないように校長会を通じてお願いした。  
 (3) 主管校が運営について熟知していることが必要。色々な質問が主管校に集中するため、早めに協力校の業務につて調査しておくことが大切である。  
 (4) 駐車場の管理が大変であったが、釧路東高校の教員により早朝から終日担当していただき非常に助かった。  
 (5) 協力校で必要な事務用品などの消耗品購入については、会計を担当する主管高校の出入りの業者を極力利用することとした。

#### ※校長会での確認事項

- ①大会期間中の教員の旅費について、各校が負担する。
- ②大会決算赤字のとき主管校だけの負担としない。
- ③顧問以外の人的援助をする。



別紙—B 大会当日の運営について

6月20日(月) 会場設営日 No.1

時間	進行	業務	担当
9:00	会場関係者集合 (釧路町体育館)	置搬出(釧路町体育館) ・トラック1台 ・青畳 266畳 赤畳 72畳	工業高校 北陽高校 東高校 武修館高校 (配置は細案による)
	式典関係者集合	ステージ(本部), 記録席設営 ・横断幕, 高体連旗, 国旗 ・開会式用掲示物(役員名等) ・長机, イス ・開(閉)会式次第 ・パソコン, プリンター ・コピー機, 印刷機	北高校 主管校 (配置は細案による)
10:00	会場関係者集合 (厚生年金体育館)	設営順序の説明	湖陵高校 江南高校 北高校 西高校
11:00	試合場設営開始	置搬入(厚生年金体育館) ・滑り止め準備  各試合場物品の配置 ・会場名(第1~第4)掲示板 ・対戦掲示用ホワイトボード ・長机 3×4, イス 45×4(審判席含む)	釧路商業 (配置は細案による)
11:00	関係生徒指導	リハーサル準備 ・更新順番マーキング等 ・放送(司会)の練習	北高校 市内校柔道部 (配置は細案による)
14:00	リハーサル	開会式リハーサル ・ブラカード準備	北高校 市内校柔道部 (配置は細案による)
16:00	清掃	会場内清掃 ・清掃用具準備	湖陵高校 工業高校 市内校柔道部 (配置は細案による)

6月21日(火) 諸会議・公式練習日 No.2

時間	進 行	業 務	担 当
8:00	関係者集合	<p>屋外設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・立て看板, 喫煙所, ※駐車場 (※看板を1週間前から表示)</li> </ul> <p>会場内点検</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試合場物品……タイマー, 得点板, 紅白テープ 黒赤マジック, 記録用紙, 紅白旗 延長コード, 団体戦用対戦表, 団体戦用学校名・個人名, 審判員名札, 体重計</li> <li>・選手控え席, 卓球フェンス</li> <li>・観客席座席割り表</li> <li>・試合関係組み合わせ表</li> </ul> <p>本部物品確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコン, プリンター, コピー機, 印刷機, 賞状, 感謝状, レプリカ, 記念品, 印刷用紙</li> </ul>	<p>湖陵高校 工業高校</p> <p>〇〇先生 △△先生</p> <p>湖陵高校 工業高校 武修館高校</p> <p>北高校 主管校</p>
9:30	審判講習会(試合場)		主管校
12:00	専門委員会(地下会議場)		主管校
13:00 ~ 17:00	受付 公式練習		北陽高校
14:00	審判会議 (スケート場スタンド)		江南高校
15:00	監督主将会議 (スケート場スタンド)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選手変更用掲示板設置</li> </ul>	江南高校
17:00	清掃	<p>会場内清掃</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃用具準備</li> </ul>	<p>湖陵高校 工業高校 市内校柔道部 (配置は細案による)</p>

6月22日(水) 開会式 男女団体戦 No.3

時間	進 行	業 務	担 当
8:00	関係者集合 開会式準備(北高) ・生徒への案内(放送)	放送による指示 メイン及び出場校ブラカートの確認・準備は前日	* 前日レプリカチェック
	受付準備(北陽) 受付開始(北陽)	集合場所・整列順の指示 来賓案内	* 役員用スリッパ用意 * 靴袋用意
8:25	選手集合(放送指示・北高)	ブラカード・整列順確認 別紙 ブラカードはそれぞれの待機場所に置く(入場順)	
	男子団体戦出場者	集合( ) (2列) 別紙	補助生徒を配置
	女子団体戦出場者	集合( ) (2列) 別紙	"
	個人戦各支部出場者	集合( ) (2列) 別紙	"
8:55	役員集合	会場内 (別紙参照) ・立ち位置の確認・選手(別紙)案内係(別紙) ・補助生徒配置(北高の指示)	立ち位置マーク(前日)
	役員集合	役員配置は役員席図参照 開会式補助生徒の位置(北高の指示)	
9:00	開会式開始 ・選手入場 男子団体戦出場校 女子団体戦出場校 個人戦出場各支部校	入場準備OKの合図(北高) 司会による進行(北高)  メインブラカードを持つ生徒は、入場終了間際に ステージ右端へ移動(最後の学校コール後)	
	・修 礼 ・開会宣言 ・優勝杯返還・レプリカ贈呈 ・神杯返還・レプリカ贈呈 ・準優勝杯返還・" ・女子優勝杯返還・" ・町田杯返還・" ・大会長挨拶 ・柔道専門部長挨拶 ・大会委員長挨拶 ・来賓祝辞	※司会進行により開始 * 教頭(西高) ※各杯の返還、レプリカ贈呈 曲の担当(北高)  西高校長 道柔連会長 釧路市長 釧路柔連会長	(司 会=放送局員)  ※介添(北高) ・教員4名
	・審判長注意 ・選手宣誓 ・特別表彰 連続出場校  ・閉式宣言 ・修 礼 ・選手退場 開会式終了	教頭(西高)  選手退場(ブラカード返却;北高の指示) 試合準備(開会式会場マーク等の撤去)	(司会=放送局)  (補助役員・生徒全員で)
9:30 10:00	試合開始 女子団体戦計量(地下会議室)	各会場確認(各会場担当) 準備は前日	江南



6月23日(木) 女子個人(女子表彰) 男子個人 No.5

時間	進 行	業 務	担 当
7:30 8:00 9:00 競技終了	関係者集合 計量 試合開始 準備  ・入賞者確認(北高、田中、原)  「48キロ級」 優勝 2位 3位(2校) 「52キロ級」 優勝 2位 3位(2校) 「57キロ級」 優勝 2位 3位(2校) 「63キロ級」 優勝 2位 3位(2校) 「70キロ級」 優勝 2位 3位(2校) 「78キロ級以下」 優勝 2位 3位(2校) 「78キロ超級」 優勝 2位 3位(2校)	試合と同時進行で表彰を行う ・表彰準備 ・入賞生徒の集合場所(ステージ向かって左) ・48kgから順番に4×7で整列(教諭2名) ・各階級ごとにステージに誘導し表彰する ※放送は一切行わない *賞状の用意 *開始の合図=(北高の指示) *選手呼び出しは専門委員が行う ※授与者は当番学校長  ※介添=(北高 教諭2名)	※専門委員に確認

6月24日(金) 男子個人閉会式 No.6

時間	進行	業務	担当
8:00 9:00 競技終了	関係者集合 試合開始 閉会式準備 ・入賞者確認(北高、田中、原)	補助役員・補助生徒準備  役員…本部席左右 補助役員…ステージ左右 賞状の確認 開始の合図=(北高の指示)	
	選手集合(放送で) 修礼 開式宣言 成績発表  男子個人戦 「60キロ以下級」 優勝 2位 3位(2名) 「66キロ以下級」 優勝 2位 3位(2名) 「73キロ以下級」 優勝 2位 3位(2名) 「81キロ以下級」 優勝 2位 3位(2名) 「90キロ以下級」 優勝 2位 3位(2名) 「100キロ以下級」 優勝 2位 3位(2名) 「100キロ超級」 優勝 2位 3位(2名)	校長登壇 教頭 授与者:校長(西高) 介添え:教諭3名  ※授与式における得賞歌は放送で行う	
	国体出場選手発表	セッティング及び掲示	( ) ( )
	講評 挨拶  閉会宣言	大会審判長 当番学校長  大会副委員長	( )
	修礼	司会	(司会=放送)

※全員による撤去作業

6月24日(金) 閉 会 式 No7

時 間	進 行	業 務	担 当
14:30	撤去作業(閉会式終了後)	<p>畳の撤去</p> <p>本部(ステージ)の撤去 ・長机、イス、パソコン、プリンター、コピー機、印刷機等の撤去</p> <p>会場の撤去 ・長机、イス、掲示板、得点板、掲示物、会場物品(紅白旗等)、卓球フェンス</p>	<p>湖陵高校 工業高校 江南高校 東高校 管内校柔道部員 (配置は細案による)</p> <p>北高校 主管校 (配置は細案による)</p> <p>北陽高校 商業高校 武修館高校 (配置は細案による)</p>
15:00	大掃除	<p>大掃除 ・ゴミ処理等</p>	<p>北陽高校 商業高校 武修館高校 主管校 (配置は細案による)</p>
15:30	返却作業(釧路町体育館)	畳の返却	<p>湖陵高校 工業高校 江南高校 北高校 東高校 西高校 (配置は細案による)</p>